

入營者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案特別委員會議事速記第四號

付託議案

○國家總動員法及戰時緊急措置法廢止法律案

○國民貯蓄組合法中改正法律案

○裁判所構成法戰時特例廢止法律案

○戰時民事特別法廢止法律案

○戰時刑事特別法廢止法律案

○判事及檢察官退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案

○鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

昭和二十年十二月六日(木曜)午前十一時十二分開會

○委員長(男爵山崎君) 只今カラ開會致シマス、本日日本委員會ニ付託ニナリマシタ鐵道敷設法戰時特例廢止法律案ニ付キ運輸大臣ノ御説明ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(田中武雄君) 鐵道敷設法戰時特例廢止法律案提案ノ理由ハ、本會議決御説明申上ゲタ通りデゴザイマスガ、此ノ戰時特例ハ大東亞戰爭ニ際シマシテ、戰力増強上緊要ノ必要アル時ハ、政府ハ敷設法第一條及第二條ノ規定ニ拘ラズ、即チ鐵道敷設法ノ定メル豫定線路以外ノモノ、或ハ豫定線路デゴザイマシテモ繼續費豫算ニ計上セラレザルモノヲ、早急ニ調查敷設スルコトヲ得ルモノト致シマシテ、此ノ場合鐵道會議ノ諮詢ヲ經ベキコトヲ規定致シテ居ルモノデゴザイマス、政府ハ遂ニ戰爭中、本戰時特例ニ依リ鐵道線路ノ調査、敷設ヲスルコトハゴザイマセヌデシタガ、終戰ニ伴ヒマシテ、此ノ戰時特例ハ必要ガナクナリマシタノ

デ、茲ニ之ヲ廢止セムトスルモノデゴザイマス、ドウカ御審議ノ上御協議下サイマスルヤウニ御願ヲ申上ゲマス

○子爵野村益三君 本法律案ニ關聯スルノデアリマスガ、近來ノ鐵道ノ非常狀態ニ付テ、大臣ノ御考ヲ承ツテ見タイト思ヒマス、近頃主トシテ石炭ノ不足ニ依ツテ、鐵道方正ニ非常ナ悲慘ナ狀態、我々カラ見レバ誠ニ御同情ニ堪ヘナイ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、我々ノ承知シテ居ル所ニ依リマシテモ、旅客ノ列車ガ五割、貨物ノ列車ガ三割ニナラムトスル狀態ニ在ル、從ツテ急行ノ乘客並ニ短距離ノ旅客ト云フモノハ、非常ニ制限ヲ受ケナケレバナラナイト云フヤウナ譯デアリマス、申上迄モナクサウ云フ風ナ懸邊關係デアレバ、戰災後ノ復興、或ハ住宅ノ問題、殊ニ食糧ノ問題ナドモ非常ナ難題、惡影響ヲ蒙ラナケレバナラス、正ニ社會ノ一大事ト危惧サレル狀態ニ立到ツタノデアリマス、我々モ心配ニ堪ヘナイデアリマスガ、ドウゾ一ツ其ノ現狀ト、並ニ之ニ對スル處理ト云フコトニ付テ、腹藏ナイ御話ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(田中武雄君) 私ハ御承知ノ通り就任後日淺クゴザイマス、御満足ノ行ク御答辯ガ出來ナイカモ存ジマセヌカラ、其ノ節ニハ政府委員カラ詳シイコトヲ御話申上ゲルコトヲ、豫メ御許シ願ヒタイト思ヒマス、最近ノ鐵道ニ於キマシテハ、毎月列車運轉用ト致シマシテハ、石炭ノ事情カラ申上ゲマス、大體五十五萬「トン」ノ石

炭ヲ使ツテ居ツタノデゴザイマス、終戰後ニ於テマシテモ、貨物輸送ノ激減ニモ拘リマセズ、旅客輸送ノ方向ハドウ云フ狀態カト申シマス、或ハ復員ノ輸送デアルトカ、或ハ俘虜、鮮人、華人ノ輸送輸送デアルトカ、或ハ疎開復歸等ニ附帶シマスル色々輸送、又ハ殊ニ日立チマスルノハ、食糧ノ不足ニ依リマスル買出し旅行、詰リ一人デ以テ二人分モ三人分モ面積ヲ取ルト云フ風ナ、唯サヘ足リマセヌ上ニサウ云フ風ナ狀態ガ激増致シマシタ爲ニ、戰時中ニモ劣ライヤウナ狀態ガ實ハ出テ參リマシテ、我々ト致シマシテハ、是デハドウモ困ル、何トカ假令少シデモト思ヒマシテ、列車ノ運轉方ニ付テ考ヘテ居リマシタノデマス、戰時中ノ貨物列車ノ方ヲ減シマシテ、其ノ方ノ分ヲ今度ハ旅客列車ノ方ヘ向ケタラバドウダラウカト云フ風ナコトデ、「ダイヤ」ノ編成ヲ致シタノデアリマス、御承知ノ通り此ノ編成ハ、鐵道省ガ見透シヲ誤ツタト云フ御此リヲ受ケマシテモ、何トモ申上ゲヤウモナイノデゴザイマスガ、兎ニ角斯ウ云フ「トン」ノコトニシテ能率ヲ良クシヨウト云フ風ナコトデヤツタノデゴザイマスガ、今日新聞デモ能ク御覽ノヤウニ、十二月ノ石炭當量云フモノガ意外ニ少イモノデゴザイマスルカラ、ドウシテモ身ヲ切ルヤウナ思ヒデ、折角民生安定ノ爲ノ一助ト云フヤウナ意味デ致シマシタノニ、又近イウチニ只今仰セノヤウニ減サネバナラヌヤウナ狀態ガ出來マシタノハ、誠ニ遺憾デ、申譯ナク存

ジテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、併シ石炭ノ割當ヲ初メカラチツボケニ致シテ參リマシテハ、能ク御承知ノヤウナ狀態ノ上、此ノ儘餘リニ消極的ニ致シマシテモ、是ハ尙ヒドイコトニ相成リマス、マア出來ル範圍ニ於テ何トカシタイト云フ風ナコトデ致シタヤウナコトデゴザイマスガ、唯併シ其ノ割當ヲズツト受ケタ儘デハドウニモナリマセヌ、是ハ商工省ノ問題デアルトカ、運輸省ノ問題デアルトカ、或ハ又農林省ノ關係デアルトカ云ツタヤウナコトガ一九二ナツテ當ツタ宜カラウト斯ウ云フ譯デアリマシテ、先日來各一九二ナツテ連絡致シマシテ、石炭ノ餘計ニ過スト云フコトガ第一ノ問題デアリマスガ、セメテ所要量ヲ本州デ以テ三十萬「トン」、北海道、九州デ十一萬「トン」、計四十一萬「トン」位デ客車、貨車ノ運行計畫ヲ編成致シマシテ、只今極力努力申デゴザイマス、之ガ爲ニハ各鐵道ノ方モ數千人ノ人間ヲ、一ツ山ヘ向ケヨウト只今差當リ東鐵ノ管内デ千五百人位ノ人ヲ、是ハ今日ノ新聞ニモチヨウト出テ居ツタト思ヒマスガ、入レテ居リマスガ、全國ニ互リマシテ必死ノ努力ヲ致シマシテ、是ハ一九二ナツテ、兎ニ角鐵道自身ガ自分ノ所ノモノデゴザイマスルカラ、若シ汽車ガ止マルト云フヤウナコトニナツテハ、是ハ大變ナコトデゴザイマスカラ、一生懸命ニナツテヤツテ居ルノデアリマス、打チ明ケテ申シマスト假リニ割當量ノ儘デ汽車ヲ動かスト云フコトニナリマス、實ノ所、客車

ヲ全部止メテシマヒマシテ、貨物ダケ動カスト云フコトニナリマシテモ、ソレデマダ石炭ガ五千「トン」位足リナイト云フヤウナ狀況ノ中カラ、何トカ立上ラウト云フ努力ヲ致シテ居ルヤウナ譯デアリマス、從ツテ旅客ノ輸送人員ヲ愈々其ノ中カラ、只今仰セナリマシタヤウナ標準デ、減ラスコトニ相成リマス、一般旅客ト定期旅客トノ比率ガ四十五「パーセント」對五十五「パーセント」デゴザイマス、其ノマシテハ、約五十「パーセント」程度ノ旅行規正ヲ行ヒマシテ、又定期ノ旅客ニ付キマシテモ十二月十日カラ一月末日迄汽車區間學生定期券ノ全面的使用ノ停止ヲ行ハザルヲ得ナイヤウナ窮狀デゴザイマシテ、結局旅客輸送全體ト致シマシテ、三十四「パーセント」程度ノ規正トナルノデゴザイマスガ、此ノ規正率ハ從來戰時中カラ色々實施致シマシタ經驗ニ徴シマシテ、モウ是ハ最大限トモ言フベキモノデゴザイマシテ、是以上ノ規正ハ事實上不可能デハナイカト存ジテ居ルヤウナ現狀デゴザイマス、他方石炭ノ確保ニ付キマシテハ、先程チヨウト申上ゲマシタガ、今後先程申上ゲマシタヤウナ線ニ沿ヒマシテ、一生懸命デ以テ全力ヲ擧ゲテ、之ニ付キマシテハ、コチヲノ首腦部、技師、ソレニ熟練セル者等ハ全部動員致シマシテ、何トカシテ此ノ國家ノ動脈ヲ停止シナイヤウニ、動脈硬化ニ陥ラヌヤウニ誠ニ微力ナガラ努力ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、一

正確ナ時計ヲ出來ルダケ早ク配付ナサル
ト云フコトガ是ガマア根源ダラウト思
フ、其ノ點ニ付テハ少クトモ大臣ハド
ウ御考ヘニナルカ、ドウ云フ風ナ方法

ヲ御探リニナルカ伺ツテ見タイト思ヒ
マス

○國務大臣(田中武雄君) 御尤モナコ
トデゴザイマシテ、物ガ三アル時ニ三
ガ三ノ通りニ付クト云フノハ是ハ當リ

前ノコトデゴザイマシテ、斯ウ云フ風ニ足リナクナツタ時ニ正確ニ行クト云

フコトガ、本當ニ望マシイコトト思フ
ノデアリマスガ、ソレガドウモ只今ノ

正確ヲ訪シタト云フノモ其ノ正確サト云フモノニ疑問ヲ生ジテ來ルヤウナ現

況ニナツテ居リマスノデ、是ハ何トカ
シテ、時間ガ生命デゴザイマスノデ、

取直シテヤリタイト存シテ居ルヤウナ
次第デゴザイマス、又時計ノ御注意モ
誠ニ適切ナ御説デゴザイマシテ、是ハ

當局モ非常ニ苦心シテ居ルヤウデゴザ
イマスガ、御承知ノ通り戰災デヒドク

ヤレマシテ、配給毎モナカ／＼廻リ
マセヌデ、配給方廻ラナケレバ直セ
、宜イチャナイカト云フ御叱リヲ受

ケルカモ存ジマセヌガ、極力ヤツテ居
リマシテモ何分受入レ先ガ相當ナ多數

ニ上ルモノデゴザイマスカラ、ソシナ
ニ愚圖々々シテドウスルノダト云フ御

此ノヲ受クルカヲ知レマセヌカ
中位ニハ只今仰シヤ、時計等ノ問題ハ
何トカ解決ガ付クノデハナイカト存ジ

テ居リマス
○子爵野村益三君
ドウゾ一ツ此ノ上

ナガラ御努力ヲ願ヒタイ、時計ノ話が
出マシタガ、私共ハ斯ウ考ヘテ居リマ
ス、日本デ恵マレテ居ルノハ一ツハ水

力電氣デ、一ツハ時計デアリマス、ア

ア云フ精巧ヲ誇ルヤウナ技術ト云フヤ
ウナモノハ日本ニ於テ最モ發達スベキ
モノダト思フノデアリマス、「スイッ
ツル」ノ如キモサウナンデス、ア、云
フコトハ日本ノ手先ノ器用ナ技術者ノ
手ニ相應シコトダト思フ、ソレデモ
我々モ時計ヲ困ツテ居リマスガ、直接
運輸省ノ御關係デハアリマセヌガ、
時計工業ト云フヤウナコトヲ、餘程好
イ機會デアアルノ御主張ニナツテ、商
工省ヲシテ十分眞面目ニ其ノ方面ニ進
ムヤウニハ御協力ヲ願ヒタイト思ヒ
マス

○國務大臣(田中武雄君) 御注意有難
ウゴザイマシタ、左様ニ一ツ尙此ノ上
トモ致シマス

○子爵野村三君 私ノ質問ハ是デ一
先ヅ打切りマス

○委員長(男爵向山均君) 外ニ御質問
ゴザイマセヌカ、鐵道敷設法戰時特例
廢止法律案ニ付キマシテ御質問ゴザイ
マセヌカ

○子爵河瀬眞君 チョット關聯シテ伺
ヒタイ、今度戰爭ニナツテ大部「レール
」ヲ取外シタ所ガアルノデゴザイマ
ス、詰リ廢メタ所ガアル、アレハ今後
ドウ云フ風ニサレル御豫定デゴザイマ
スカ

○國務大臣(田中武雄君) ソレハ仰セ
ノ通りデゴザイマシテ、「レール」ヲ取
外シマシテ片方ハ流用致シマシタ、其
ノ時ニモ必ズハ戰爭ガ濟メバ元ノ方
ヘ返スカラト云フ風ナ約束モ相當出來
テ居ルノデゴザイマス、私ノ就任ノ前
ノコトデゴザイマスガ、之ニ付テハ無
論公約ハ實行スル積リデ居リマスノ
デ、其ノ狀況ニ應ジマシテ無論原則ト
シテハ其ノ前ノ狀態ニ復歸スルヤウ
ニ計リタイト考ヘテ居リマス

○委員長(男爵向山均君) 外ニ御發言
ハゴザイマセヌデスカ

○男爵三須精一君 チョット伺ヒマ
ス、此ノ度五割ノ規正ヲサレルノデア
リマスガ、是ハ一方燃料局ノ方デモ採
炭ニ付テハ非常ナ馬力ヲ掛ケテ居リ
マスガ、大體是ガ元ニ復歸スルニハ、
何時時分ニナルカト云フ御見込ガアレ
バ、ソレヲ伺ヒタイ

○國務大臣(田中武雄君) 只今ノ所デ
ハ先ヅ一月一杯位ニハ上向ニナツテ來
ルダラウト思フノデゴザイマス、御承
知ノ通り、アノ「ダイヤ」ヲ組ミマシ
テ、處理ノ方法トシテハ運輸停止、運
休ト稱スルヤツデゴザイマス、アレデ
ズツト棒ヲ引キマシテ、ズツト出廻リ
ニ連レマシテ、運休ノ板ヲ割ガシテ行
カウト云フヤウナ風ナヤリ方デズツト
元ニ戻シテ參ルト、大體一月一杯位以
テ、出來ルコトナラバ復元ノ狀態ニ置
キマシテ、所期ノ計畫ヲ進メタイト思
ヒマス

○男爵三須精一君 モウ一點伺ヒタイ
ノハ、地方カラ非常ニ貨物ヲ輸送スル
ニ對シテ、紛失事件ガ非常ニ多イノデ
ゴザイマス、之ニ付キマシテハ十個出
シテモ一個必ズ無クナルトカ、非常ニ
非難ガアルノデアリマス、此ノ點ニ付
キマシテ、當局トシテハ如何ニ取締
リ、或ハ其ノ他ニ付テノ御考ニ依ツテ
御努力ナサツテ居ルノデセウカ、其ノ
點ヲ伺ヒタイ

○國務大臣(田中武雄君) 是ハ誠ニ申
譯ナイコトデゴザイマシテ、殊ニ此ノ
頃ノ特徵ハ宛名ノ人ガ相當著名ナ人デ
ゴザイマス、却ツテ反感的ニ物ノ頭
ヲ撥ネルヤウナ狀況ガ殖エテ參リマシ
テ、誠ニ心配ヲシテ居ルノデゴザイマ
スガ、是ハ各局ヲ通ジマシテ、全國ニ

發令ヲ致シマシテ、嚴重ニソレヲヤル
ヤウニ今申シテ居ル、具體的ニ申シマ
スト在察際ト申シマス、監視隊ト申
シマス、ト云フヤウナモノヲ配リマ
シタリ、構内ノ色々設備ヲ、詰リマ
ア泥棒ニ入ルヤウナ口ヲ閉ケテ居ルト
云フヤウナコトモゴザイマスノデ、サ
ウ云フ所ハ今度ハ垣根ヲ嚴重ニスルト
カ、何トカ云フヤウナゴトト、ソレカ
ラ不寢番ノヤウナ制度ヲ排ヘマシテ、
絶エズ監視ヲシテ居ルトカ、ソレカラ
此ノ運搬ヲスル人間ノ内部ニ向ツテ
モ、十分取締ヲ強化シマシテ、外カラ
來ル方ヲ取締ツテ、内輪カラ變ナ手癖
ノ惡イノガ出マセヌヤウニ嚴重ニシ
テ、内外應ジタヤウナ處置ヲ一齊ニ講
ジサセテ居ルノデゴザイマスガ、御滿
足ノ行キヤウナマダ結果ガ出マセヌコ
トハ申譯ガナイト思ヒマス、サウ云フ
コトダケ申上ゲテ置キマス

○子爵河瀬眞君 チョット私モウ一ツ
伺ヒタイノデスガ、是ハ關聯ハ餘リシ
テ居ナイカモ知レマセヌガ、丁度好
イ機會ト申スノハ如何カ存ジマセヌ
ガ、鐵道ノ煙デゴザイマス、ソレデ
山火事ヲ相當起シタ、處ガソレヲ地方
ノ人ガ言ツテモ補償シテ呉レナイト云
フコトヲ能ク聞クノデス、ソレハ私ハ
サウ云フノヲ二、三人カラ地方ヘ行
ツテ聞イタノデゴザイマスガ、モツト
深い所ハ存ジマセヌ、サウ云フ風ナコ
トヲ可ナリ訴ヘル人多イノデゴザイ
マスガ、果シテサウ云フコトモ如何ニ
ナツテ居リマス、實際ノ深い所ヲ存
ジマセヌガ、一應御伺ヒ致シタイト思
フノデス

○國務大臣(田中武雄君) サウ云フ事
故ハ實際ニゴザイマス、例ヘバ此ノ頃
石炭ガ惡クナリマシタノデ、非常ニ煤

煙ガグツト斯ウ出マス、サウスルト斯
ウ切ツタ道ノ中ナシカラ參リマス、
此處ニ木ガ生エテ居ル、之ニボウツト
行クデス、ソレカラ矢ツ張りモ炭
ガ惡イ例デゴザイマスガ、火ノ儘デモ
ツテ飛ブンデゴザイマス、ソレガ藥
屋根ノ民家ナシカニ點キマシテ、或時
ナンカ二十何軒モ火事ヲ起シタト云フ
ヤウナ事故モゴザイマス、是等ニ對シ
テハ無論向フノ満足ノ行キヤウナコト
ハゴザイマセヌガ、正式ノ手續ヲ經タ
モノニ對シテハ、現ニ相當ニ致シテ居
リマスノデスガ、若シサウ云フノガ漏
レタヤウナ所ガゴザイマシタナラバ、
十分ニ氣ヲ付ケテ行キタイト思ヒマス

○委員長(男爵向山均君) 外ニ御發言
ゴザイマセヌカ、本案ノ討論ニ移
リタイト存ジマス、御異議ゴザイマセ
ヌカ

○異議ナシト呼フ者アリ
○委員長(男爵向山均君) 討論ニ入リ
マス、本案ニ對スル御意見ガ御アリデ
ゴザイマシタラ……、御發言ナイト認
メマス、然ラバ本案ヲ政府ノ提出案ノ
通り可決スベキモノト議決シテ御異議
ゴザイマセヌカ

○異議ナシト呼フ者アリ
○委員長(男爵向山均君) デハ鐵道敷
設法戰時特例廢止法律案ハ政府ノ原案
通り可決スベキモノト決シマシタ、次
ニ今朝付託ニ相成リマシタ司法省關係
ノ法律案即チ裁判所構成法戰時特例
廢止法律案、戰時民事特別法廢止法律
案、戰時刑事特別法廢止法律案、事及
檢察ノ退職並ニ刑事ノ轉所ニ關スル法
律案ノ四案ヲ、一括政府委員ノ御説明
ヲ伺ヒタイト存ジマス

○政府委員(手代木隆吉君) 大臣ハ只
今衆議院ノ選舉法委員會ニ出席中デア
リマシテ、コチラニ御説明ニ伺フコト
ガ出來マセヌノデ、私ヨリ只今議題ニ
ナリマシタ司法省提出四案ニ付テ大體
ノ提案理由ヲ御説明申上ゲタイト思ヒ
マス、裁判所構成法戰時特例廢止法律
案ニ付テ提案理由ヲ御説明申上ゲマ
ス、本法案ハ司法制度ノ戰時態勢ヲ平
時態勢ニ復シセルコトヲ目的トスル
モノデアリマス、裁判所構成法戰時特
例ハ大東亞戰爭勃發後司法制度ヲ戰時
態勢下ニ置クベキ審級制度ノ整理、單
獨裁判所ノ權限擴張等ヲ主要ナル内容
ト致シマシテ昭和十七年二月交付セラ
レ、爾後戰局ノ推移ニ即應致シマシ
テ、昭和十八年十月及昭和二十年六
月ノ兩回是ガ改正ヲ行ヒ、右ノ趣旨ノ
徹底ヲ期スルト共ニ手續ノ簡素化ノ爲
若干ノ規定ヲ追加シタモノデアリマ
ス、是等ノ措置ハ同法ト並行シテ制定
サレ且ツ改正サレマシタ戰時民事特別
法及戰時刑事特別法ト共ニ、戰時下勞
務、資材、交通、通信ノ困難ナ狀況下
ニ於キマシテ、尙能ク司法ヲシテ其ノ
機能ヲ維持セシムルニ與ツテ力ガアツ
タノデアリマスガ、之ニ伴ヒマス訴訟
關係人ノ不利不便ハ之ヲ蔽フコトヲ得
ナカッタノデアリマス、今ヤ終戰ニ伴
ヒマシテ、戰時中ノ諸般ノ障礙ノ内、
或モノハ漸ク解消シツ、アルノミナラ
ズ、戰後ノ民力回復ノ爲ニモ右ノ如キ
訴訟關係人ノ不利不便ハ速ニ之ヲ除却
シ、其ノ保障ノ萬全ヲ期サナケレバナ
ライノデアリマス、茲ニ政府ハ本法
律案ヲ提出ヲ致シ、戰時中ノ特別例ヲ
舉ニ廢止シ、必要已ムヲ得ザル經過規
定等ヲ設クルコトニ止メムトスルモノ
デアリマス、舊法廢止ノ效果トシテ注
意スベキ點ハ以下ニ述ベマス三點デア
リマス、第一點ハ戰時中已ムヲ得ズ採

入當者職業保障法及國民勞務手續法廢止法律案特別委員會議事速記第四號

昭和二十年十二月六日【貴族院】

三

用シテ二審制度ヲ三審制度ニ復歸セシムルコトデアリマス、唯、此際中ノ上告事件及抗告事件ニ付キマシテハ舊法ニ依ツテ手續ヲ進展セシメル外ナイノデアリマスカラ、附則ニ之ヲ規定致シタノデアリマス、第二點ハ戰時中擴大サレマシタ區域裁判所ノ事務管轄ヲ刑事ニ付テハ舊法ニ復歸スルコトデアリマス、其ノ結果比較的重要ナ刑事件ハ總て合議裁判所デアアル地方裁判所ニ於テ審判サレルコトニナルノデアリマス、唯、民事ニ付キマシテハ戰時中擴張サレマシタ事務管轄ノ限度二千圓ハ其ノ後ノ經濟狀態ニ鑑ミマスル時ハ、現在既ニ尙過小ノ感ガアリ、寧ろ之ヲ更ニ引上ゲル必要アルコトヲ思ハセルノデアリマスガ、今後ノ情勢ノ推移ノ狀態ガ遽ニ逆轉シ難イ今日、直チニ之ガ引上ゲ決定スルコトモ其ノ時期デナイト考ヘマスノデ、當分ノ間現狀ノ儘ニ據置クコトヲ致シマス、附則第三項中第二條ニ關スル部分ガ即チアレデアルマス、第三點ハ裁判所ノ設立、廢止及管轄區域並ニ其ノ變更ハ、事ノ重要性ニ鑑ミマシテ爾今戰前同様に法律ヲ以テ定ムルコトヲ要スルコトニナツタ點デアリマス、以上三點ノ外舊法廢止ノ結果トシテ戰時中擴大サレタ裁判所代理ノ制度モ舊法ニ復シ、裁判所書記ノ立會省略ノ如キモノモ將來ハ之ヲ認メラレナクナルノデアリマス、唯、裁判所ノ廳舍外ノ執務、法服ノ省略等ノ制度ハ現狀ニ鑑ミマシテ當分ノ内ニ之ヲ存置スルコトヲ致シタノデアリマス、以上ガ本法案ノ提案ノ趣旨デアリマス、次、戰時民事特別法廢止ニ關スル法律案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、終戰ニ伴ヒマシテ一切ノ戰時色ヲ拂拭シ新日本建設ノ第一歩ヲ踏出スガ爲戰時ニ於ケル

臨時ニ關スル特別ヲ定メタ戰時民事特別法、以下説明ノ際ニハ之ヲ舊法ト申シマスルガ、ソレヲ廢止スルコトニナツタノデアリマス、而シテ本法案ノ本文ニ於テハ舊法ハ一應之ヲ全面的ニ廢止スルコトヲ建前ト致シテ居リマスガ、同法中特ニ緊急已ムヲ得ナイモノニ限リ暫定ノ尙當分ノ間效力ヲ有セシムルコトトシ、本法案ハ之ヲ其ノ附則ニ規定致シマス、以下簡單ニ之ヲ御説明致シマス、第一ニ舊法中ニハ、戰時ニ於ケル諸物資、就中新聞紙等諸用紙ノ供給ノ極端ニ窮乏ナルコトニ原因致シマスル幾多ノ規定ガアルノデアリマス、裁判所ガ官報及新聞紙ヲ以テ公告ヲスベキ場合新聞紙等ニ於ケル公告ヲ取止メタ第三條、又裁判所ノ爲スベキ登記事項ニ關スル公告全體ヲ取止メマシタ第二十條、登記簿、謄本又ハ抄本、其ノ交付ニ代ヘマシテ其ノ記載事項ニ變更ナキコトノ證明書ヲ以テ致シマシタ第二十一條、登記簿ノ作成、登記申請等ニ關シテ簡易ナ手續ヲ規定致シマシタ第二十二條ノ諸規定ハ主トシテ、此ノ種ノ立法ノ趣旨ニ基クモノデアリマス、然ルニ右新聞紙ヲ初メ其ノ他ノ諸用紙ノ供給事情ハ終戰後ノ今日ニ於キマシテモ、戰時中ト殆ト異ラナイモノガアルノデアリマス、從ツテ本法案ニ於キマシテモ前述ノ各規定ハ當分ノ間尙其ノ效力ヲ有セシムルコトヲ致シタノデアリマス、第二ニ舊法中ニハ必ズシモ戰時中ニ限リ之ガ適用ヲ必要トスル規定デハナク、豫テ實務取扱ノ經驗上多年ノ方立法ヲ要望セラレテ來マシタ幾多ノ事項中特ニ緊急ナモノヲ民事法ヲ改正ヲ機會ニ同法中ニ規定シタモノモアルマス、斯クノ如キ規程ハ一旦舊法廢止ト共ニ一應其ノ效力

ヲ消失セシムルモ、政府ハ更ニ檢討ノ上後日恒久法トシテ立案提出スルコトヲ考慮シテ居リマスガ、其ノ内ニ付特ニ舊法第十四條乃至第十九條ノ規定シタ民事調停ニ關スル規定ハ戰時中ニ於ケルヨリモ終戰ニ接スル今日ニ於テ其ノ適切ナル運用ガ一層期待セララル、ト共ニ他日恒久立法ニ變入レラレマシタ際ニ於ケル戰後連絡ヲ缺ク等ノコトヲナカラスム、必要上、本法案ニ於テ一應當分ノ間尙其ノ效力ヲ有セシムルコトヲ致シタノデアリマス、第三ニ本法案ニハ舊法廢止ニ關シ、立法技術ノ上カラ當然考慮セララルベキ經過ノ規定ト致シマシテ、前述ノ第二十條ニ於テ登記事項ノ公告ノ取止メニ關聯シテ規定セラレタ、昭和二十年法律第九號附則第三項ノ規定、舊法ノ規定ニ基キ停止又ハ中止シタ強制執行、又ハ破産手續ノ廢止ニ於ケル進行ニ關聯致シマシタ規定セラレタ、舊法第十一條第二項及第十二條第二項ノ規定ハ、當分ノ内尙其ノ效力ヲ有スベキコトヲ規定致シタノデアリマス、第四ニハ本法案中同時提出致シマシタ、裁判所構成法戰時條例廢止ニ關スル法律案ニ於テ、裁判所構成法戰時條例第二條ノ規定、即チ區域裁判所ニ於ケル事務管轄ノ範圍ヲ二千圓ニ擴張致シタ點デアリマスガ、之ヲ當分ノ内其ノ效力ヲ有セシムル旨規定シマシタノニ對應致シマシテ、訴訟物ノ價額算定ニ關スル舊法第五條ノ規定ヲ、又右法律案ニ於テ、現ニ緊要中ノ上告事件ニ限リ、尙裁判所構成法戰時條例第四條乃至第六條ノ所謂、二審制度ノ規定ガ效力ヲ有セシムル旨規定シタノニ對應シテ、其ノ上告審ニ於ケル手續ニ關スル、舊法第十條ノ二及第十條ノ三ノ規定ヲ本法案ニ於テモ、

尙當分ノ内現ニ緊要中ノ上告事件ニ對シ其ノ效力ヲ有セシムベキ旨ノ經過規程ヲ設ケタノデアリマス、最後ニ舊法廢止ノ結果舊法ノ規定ニ依ツテ爲シタル手續ノ效力ニ付、注意ノ規定ヲ致シタノデアリマス、以上ガ本案提出ノ理由デアリマス、次ニ戰時民事特別法廢止ニ關スル法律案ノ提案理由ニ付テ御説明申上ゲマス、戰時民事特別法ハ昭和十七年三月二十二日施行セラレ、爾來數次ノ改正ヲ經テ今日ニ至ツタノデアリマスガ、同法律ハ申上迄モナク、刑法並ニ刑事訴訟法ガ主トシテ平時ノ對象トシテ規定サレテ居リ、戰時下ニ於ケル犯罪ノ豫防、並ニ鎮壓ヲ目的トスル法規トシテハ十分デアリマス、爲ニ戰時下ニ於テ國內ノ治安等ヲ著シク阻害スル犯罪ニ對シテハ、刑法所定ノ刑罰ヲ加重整備シ、一般豫防ノ目的ヲ徹底化シマスルト共ニ、刑事手續ニ付テモ應急ノ措置トシテ、戰時ニ相應セル特別ヲ設ケテ、事件ノ迅速ナル處理ヲ期スル爲ニ制定セラレタモノデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク大東亞戰爭ハ既ニ結局ヲ告ゲマシテ、國內ニ於ケル諸般ノ情勢モ遂次平時ノ狀態ニ復シ、アルノデアリマス、從ヒマシテ戰時民事特別法ヲ制定スルニ至リマシタ理由ハ一應茲ニ消滅シタ譯デアリマス、是ガ廢止法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、本法案ノ條文ハ極メテ簡單デアリマスガ、先ツ本文ニ於テハ戰時刑事特別法ヲ廢止スルコトニ規定シタノデアリマスガ、一先ツ全般ニ互リマシテ之ヲ廢止スルコトヲ致シテ居ルノデアリマス、次ニ附則第一項ハ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトトシ、附則第二項以下ニ於キマシテ若干ノ經過規定ヲ設ケタノデアリマス、

即チ附則第二項ハ本法施行ノ日迄ニ戰時刑事特別法第一章ノ規定スル罪ヲ犯シマシタ者ニ對シマシテハ、本法施行後ト雖モ、從前通り同法第一章ノ規定ニ從ツテ之ヲ處斷スルコトヲ致シマシテ、處罰ノ公平ヲ期シタ次第デアリマス、附則第三項ハ、戰時民事特別法第十九條ノ二ノ、裁判所ガ土地管轄ニ關スル規定ニ拘束サレルコトナク、自ラ事件ヲ審判シ、又ハ他ノ裁判所ニ之ヲ移送シ得ル旨ノ規定ト、同法第二十三條第三項ノ、裁判所ガ審判ノ必要上、商工會議所其ノ他ノ團體ヨリ求メタル報告書ハ、原則トシテ公判廷ニ於テ取調ハナケレバナラヌ旨ノ規定、及同法第三十一條中陸海軍ノ軍法會議ノ刑事手續ニ付、右ノ規定ヲ準用スル部分、並ニ同法第二十五條ノ地方裁判所ノ事件ニ付、被告人等ノ供述ヲ錄取シテ書類ニシテ、法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニアラザルモノニ付、既存ハ、本法施行前ニ公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ尙其ノ效力ヲ有スルモノトシ、附則第四項ハ、御說明致シマシタ裁判所構成法戰時條例廢止ニ關スル法律案ノ附則第五項ニ依リ裁判所構成法ノ戰時條例ニ定ムル裁判ノ二審制ニ關スル規定ガ現ニ緊要中ノ上告事件ニ付テハ同法律廢止後ト雖モ、尙其ノ效力ヲ有スルコトト相成リマスルノデ、之ニ對應致シマシテ、本法施行ノ際、裁判所構成法戰時條例ノ規定ニ基キ、現ニ緊要中ノ上告事件ニ付テハ、上告理由及上告審ノ手續ニ關スル戰時民事特別法第二十七條ノ規定モ亦、本法施行後ト雖モ尙其ノ適用アルコトヲ明カニシ、附則第五項ハ本法施行前戰時民事特別法ノ規定ニ

依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ
尙其ノ效力ヲ有スルモノト致シマシ
テ、孰レモ手續ノ無用ナル紛淆、混亂
ヲ避ケムトシタモノデアリマス、以上
本案提出ノ理由ノ概要ヲ御説明申上
ゲ
タノデアリマス、最後ニ判事及檢察
官ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案提出
ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本法律
案ハ終戰ニ伴ヒ一般官吏ノ減員ヲ行フ
ニ際シマシテ、判事及檢察官ニ付テモ減
員ヲ行フ爲メ、減員額定數二百二十八
人ニ付テ裁制所構成法ニ定メラレタ
判事及檢察官ノ地位ノ保障ヲ一時制限セ
ムトスルモノデアリマス、元來判事ハ
終身官トシテ憲法上其ノ身分ヲ保障セ
ラレ、刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由
ルノ外其ノ職ヲ免ゼラレルコトガナ
コトニナシテ居リ、又之ニ退職、轉所
等ヲ命ズルコトモ裁制所構成法ニ依
テ制限サレテ居リマス、檢察官ノ退職
ニ付テモ同法ニ同様ノ制限ガゴザイマス
ノデ、今回ノ行政整理ヲ判事、檢察官
モ及ボス爲ニハ、法律ヲ以テ裁制所構
成法ノ右制限ヲ排除スルノ必要ガアル
ノデアリマス、仍テ本案デハ此ノ制
限ヲ最小限度ニ排除スル爲メ、判事、檢
察官ヲ通シ減員額定數二百二十八人ニ付
昭和二十一年三月三十一日迄ヲ限リ之
ニ退職ヲ命ジ得ルコトトナサムトスル
モノデアリマス、加之憲法ノ精神ハ行
政權ヲ以テ濫ニ判事ノ地位ヲ動カシ得
ナイコトヲ保障スルニアルノデアリマ
スルカラ、判事ニ退職ヲ命ズルニシマ
シテモ、司法大臣ノ專權ニ委ネルコト
ハ適當ニアラズト考ヘマス、其
ノ願ニ依ル場合ノ外ハ大審院ノ總會ノ
決議ヲ經ルコトヲ要スルモノトシ、更
ニ其ノ決議ヲ慎重ナラシムル爲メ、其ノ
總會ハ大審院ノ判事三分ノ二以上出席

シテ之ヲ開キ、其ノ決議ハ出席者ノ三
分ノ二以上ノ意見ニ依リ之ヲ爲スコト
トシタノデアリマス、尙以上ノ措置ニ
依リ判事及檢察官ノ退職ヲ命ジ場合ニ
ハ、之ニ伴ヒ判事及檢察官ノ配置換ヘ
爲メ、之ニ轉所ヲ命ズル必要ガアリマ
ス、判事ノ轉所ニ付テハ同年四月
三十日迄前裁制所構成法ニ定ムル保
障ヲ一時撤廢セムトスルモノデアリマ
ス、以上ガ本案説明ノ大要デアリマ
ス、以上御説明申上ゲマシタ四案ニ
付キマシテ何卒慎重御審議ノ上速カニ
御可決アラムコトヲ御願ヒ致ス次第
デアリマス
○委員長(男爵向山均君) 午前ハ是デ
休憩スルコトニ致シマス、午後ハ一時
半カラ引續キ只今ノ法案ニ付テノ審議
ニ入りタイト思ヒマス
午前十二時十四分休憩

午後一時三十九分開會
○委員長(男爵向山均君) 只今カラ午
前ニ引續キマシテ委員會ヲ開催致シマ
ス、先ヅ御諮リシタイノデゴザイマス
ガ、司法省關係ノ法律案中裁制所構成
法戰時特例廢止法律案、戰時民事特別
法廢止法律案、戰時刑事特別法廢止法
律案ノ三案ヲ一括シテ審議ニ移リタイ
ト存ジマスガ、如何デアリマスカ
○男爵三須精一君 此ハ此ノ廢止法律
案ニ付キマシテ戰時中ニ於キマスル所
ノ、此ノ特別法ガ出マシテカラノ犯罪
ノ狀態ヲ知リタイト思フノデアリガ、
其ノ大略デモ宜シウゴザイマスカラ、
一度御諮リ願ヒタイト思ヒマス、戰時
中ニ於キマシテ、此ノ特別法ガ制定サ
レマシテ後、現在迄ニ色々ナ犯罪事項

ニ付テ之ニ抵觸スルヤウナモノモ可成
リ多クツタラウト思ヒマスガ、其ノ狀
態ハドウ云フヤウナ狀態デアツタカ、
此ノ廢止セラレナイ前ノ現在迄ノ事件
デゴザイマス
○國務大臣(岩田宙造君) 只今ノ御尋
ハ此ノ戰時中ノ特別法ニ觸レタ事件ガ
ドウ云フ風デアツタカト云フ御尋デア
リマスカ
○男爵三須精一君 其ノ狀況デゴザイ
マス、大體デ宜シウゴザイマス
○國務大臣(岩田宙造君) ソレハ相當
數アツタノデアリマスガ、其ノ數、其
ノ他ニ付キマシテハ政府委員ノ方カラ
御説明申上ゲマス
○委員長(男爵向山均君) チョット御
諮リ致シマス、説明員ノ説明ヲ聽カウ
ト存ジマスガ、御異議ゴザイマセヌカ
○異議ナシト呼フ者アリ

○委員長(男爵向山均君) 御異議ナ
シ認メマス
○説明員(野木新一君) 生體統計ガ機
ケテシマヒマシテ、昭和十六年十二
月カラ昭和十九年七月、是ハ戰時民事特
別法ノ出ル前ノ戰時犯罪處罰ニ關スル
事件ガ一部含マレテ居リマスガ、ソレ迄
ノ正確ナ統計ガアリマシテ、ソレ以後
ハ是カラ推定シテ見マシタモノデスケ
レドモ、順次申上ゲマス、一番多イ
ノハ第一條ノ戰時放火關係デゴザイマ
ス、是ハ昭和十六年十二月カラ二十年
八月迄デ、其ノ中十六年十二月カラ十九
年七月迄ハ實際ノ統計ニ依存シタモノ
デアリマシテ、ソレ以後ハソレヲ基礎ニ
シテ推定シタモノデゴザイマシテ、ソ
レヲ加ヘマス、戰時放火關係デハ裁判
所ノ受理シタ人員ガ、第一條ノ戰時現
住建造物等放火ガ四百七十八人、戰時非
住建造物等放火ガ七十六人、戰時放火

豫備通謀、是ハ八十八人、第二條ノ戰時現
住建造物等以外放火、是ガ七十八人、第四條ノ
戰時強姦、是ガ五百人、同致死傷
四十四人、戰時強姦強姦強姦強姦、同
致死傷三百七十八人、只今裁制所受理ト申
シマシタガ、是ハ檢察局受理デゴザイ
マス、序デニ起訴人員申上ゲマス
ト、前後致シマスガ、最初カラ申上
ゲマス、一番初メノ戰時現住建造物等
放火ハ受理人員四百七十八人、起訴人員
ガ二百六十九人、戰時非現住建造物等
放火ハ受理人員ガ七十六人、起訴人員
ガ四十四人、戰時放火豫備通謀、受理
ガ三人、起訴ガ三人、戰時建造物等以
外放火受理ガ七十八人、起訴ガ四人、戰時
強姦強姦強姦強姦強姦、受理ガ五百人、起訴ガ六百
十二人、同致死傷受理ガ四百四十四人、
起訴ガ十五人、戰時強姦強姦強姦強姦、受理ガ一千
二百二十八人、起訴ガ五百八十八人、同致
死傷受理ガ三百七十八人、起訴ガ二百二
十七人、戰時強姦、是ガ絕對多數ヲ
占メルモノデゴザイマスガ、是ガ受理
ガ二萬六千二百五十五人、起訴ガ一萬八百
八十人、戰時強姦、是ガ受理ガ七百七十一
人、起訴ガ四百四十三人、同致死傷ガ
受理ガ三百六十二人、起訴ガ二百六十
一人、戰時強姦強姦強姦強姦強姦、受理ガ三百三十
六人、起訴ガ八十人、ソレカラ戰時強姦
強姦強姦強姦強姦強姦、受理ガ七十八人、起訴ガ零、ソ
レカラ第六條ノ戰時強姦、是ハ受理ガ
一千一百七十八人、起訴ガ三百二十八人、
第七條ノ國政變亂殺人豫備、是ガ受理
ガ四十九人、起訴ガ七十八人、同ジク第
七條ノ國政變亂安寧秩序紊亂等宣傳、
是ハ受理ガ一人、起訴ガ一人、デゴザイ
マス、第八條ノ戰時防空公務執行妨害、
是ガ受理ガ七十八人、起訴ガ一人、第十條
ノ防空妨害ガ受理ガ十一人、起訴ハ零
デアリマス、第十一條ノ戰時通信妨害、

受理ガ二十九人、起訴ガ七十八人、第十二
條ノ瓦斯氣利用妨害、受理ガ七十八
人、起訴ガ二ノナツテ居リマス、第十三
條ノ生業事業妨害、是ハ受理ガ七十二
人、起訴ガ四十二人、第十五條ノ戰時
賣買賤占、受理ガ二十一人、起訴ガ十
人、第十六條關係ノ戰時往來妨害、是ハ
受理ガ二百一十一人、起訴ガ十三人、同
致死傷ガ受理ガ十人、起訴ハ零トナリ
マス、矢張第十六條關係ノ戰時電氣車
往來危險預備、是ガ受理ガ三百二十七
人、起訴ガ七十二人、戰時艦船往來危
險預備、是ガ受理ガ十人、起訴ガ二人、
第十七條ノ戰時居住侵入、是ガ非常ニ
大キイモノデアリマシテ、受理一萬七
百六十六人、起訴ガ五千八百九十九人、
第十八條ノ戰時淨水毒物混入、是ガ受
理ガ七十八人、起訴ガ一人、戰時水道損壞、
是ガ受理ガ七十八人、起訴ガナシ、第十八
條ノ二、三、五ノ戰時收買、是ガ受理
ガ三百八十四人、起訴ガ二百二十三
人、戰時贈賄、是ハ受理ガ一千二百六十一
人、起訴ガ六百一十一人、合計シマシテ、
受理ガ四萬三千九百七十八人、起訴ガ二
萬四千七十八人、斯ウ云フヤウナコトニ
ナツテ居リマス

○委員長(男爵向山均君) 外ニ御異
議ハゴザイマセヌカ、デハ此ノ三案ニ
付キマシテハ、御質疑ガナイヤウデゴ
ザイマスカラ、討論ニ入りタイト存ジ
マス、御發言願ヒマス、此ノ三案ニ付
キマシテ別ニ御意見ガゴザイマセヌケ
レバ、三案即チ裁制所構成法戰時特例
廢止法律案、戰時民事特別法廢止法律
案、戰時刑事特別法廢止法律案ノ三案
ハ全部政府提出ノ原案通り可決致スコ
トニ御異議ゴザイマセヌカ
○委員長(男爵向山均君) デハ左様決

○委員長(男爵向山均君) 只今カラ午
前ニ引續キマシテ委員會ヲ開催致シマ
ス、先ヅ御諮リシタイノデゴザイマス
ガ、司法省關係ノ法律案中裁制所構成
法戰時特例廢止法律案、戰時民事特別
法廢止法律案、戰時刑事特別法廢止法
律案ノ三案ヲ一括シテ審議ニ移リタイ
ト存ジマスガ、如何デアリマスカ
○男爵三須精一君 此ハ此ノ廢止法律
案ニ付キマシテ戰時中ニ於キマスル所
ノ、此ノ特別法ガ出マシテカラノ犯罪
ノ狀態ヲ知リタイト思フノデアリガ、
其ノ大略デモ宜シウゴザイマスカラ、
一度御諮リ願ヒタイト思ヒマス、戰時
中ニ於キマシテ、此ノ特別法ガ制定サ
レマシテ後、現在迄ニ色々ナ犯罪事項

ニ付テ之ニ抵觸スルヤウナモノモ可成
リ多クツタラウト思ヒマスガ、其ノ狀
態ハドウ云フヤウナ狀態デアツタカ、
此ノ廢止セラレナイ前ノ現在迄ノ事件
デゴザイマス
○國務大臣(岩田宙造君) 只今ノ御尋
ハ此ノ戰時中ノ特別法ニ觸レタ事件ガ
ドウ云フ風デアツタカト云フ御尋デア
リマスカ
○男爵三須精一君 其ノ狀況デゴザイ
マス、大體デ宜シウゴザイマス
○國務大臣(岩田宙造君) ソレハ相當
數アツタノデアリマスガ、其ノ數、其
ノ他ニ付キマシテハ政府委員ノ方カラ
御説明申上ゲマス
○委員長(男爵向山均君) チョット御
諮リ致シマス、説明員ノ説明ヲ聽カウ
ト存ジマスガ、御異議ゴザイマセヌカ
○異議ナシト呼フ者アリ

入當者職業保障法及國民勞務手續法廢止法律案特別委員會議事速記第四號

昭和三十二年十二月六日【貴族院】

昭和三十二年十二月六日【貴族院】

昭和三十二年十二月六日【貴族院】

昭和三十二年十二月六日【貴族院】

定致シマス、次ニ判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案ニ付テ質疑ニ入りタイト思ヒマス、別ニ御發言モナケレバ、本案ノ討議ニ入りタイト存ジマス、御發言願ヒマス、御發言ナイト認メマス、判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案ハ全部政府ノ提出ノ原案通り可決致スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(男爵向山均君) 御異議ナイト認メマス、原案通り可決致スコトニ決定致シタイト存ジマス、是デ司法省關係ヲ終リマス、是デ本日ノ委員會ヲ閉ヂマス

午後一時五十五分散會

出席者左ノ如シ

委員長 男爵向山 均君

副委員長 子爵安戸 功男君

委員

侯爵四條 隆德君

侯爵佐竹 義榮君

子爵野村 益三君

子爵河瀬 眞君

男爵三須 精一君

男爵古市 六三君

竹内 可吉君

大木 操君

瀧 正雄君

松本 學君

合田 健吉君

伊藤 傳七君

國務大臣

司法大臣 岩田 宙造君

運輸大臣 田中 武雄君

政府委員

大藏省國民 今井 一男君

貯蓄局長 手代木 隆吉君

司法參事官 伯爵渡邊 昭君

司法省民事局長 奥野 健一君
司法省刑事局長 佐藤 廉佐君
運輸省政務次官 新井 亮爾君
運輸省參事官 白川 久雄君
鐵道監 伊能繁次郎君
同 岡田 信次君
說明員 司法書記官 野木 新一君